

# 加賀百万石の武家文化を 今に伝える

## ～加賀「八家」本多家5万石の威容～

藩老本多蔵品館は、加賀「八家」本多家に伝わる藩政初期の武具を中心に、馬具一式や馬鞍などの陣立装具を展示した、全国的にも希少な武家博物館です。

また、美術工芸品としても価値の高い調度品や、古文書、絵図など、藩政時代の優れた文化や歴史を知ることができる、貴重な資料を展示しています。

## 本多家随一の家宝「村雨の壺」

江戸時代の初期（慶長末期）、幕府と加賀藩との間で、越中国新川郡の領有権をめぐる問題が起こりました。本多政重は父・正信や兄・正純を介して幕府と交渉し、最終的に新川郡は加賀藩のものとなります。

本多家の言い伝えによると、このとき、この功によって5万石から10万石への加増の話がありましたが、政重が辞退したため、代わりにこの「村雨の壺」を拝領したとのこと。このことから、別名「五万石の壺」ともいい、本多家ではとりわけ大切にされてきました。



村雨の壺



### 〔ご案内図〕



### 〔交通案内〕

- 徒歩 兼六園から5分  
香林坊から15分
- バス JR金沢駅兼六園口  
「兼六園シャトル」成翼閣前下車徒歩2分
- タクシー 金沢駅から約15分
- 車 北陸自動車道 金沢西又は東インターより、約7km  
駐車場：あり

### ■開館時間

午前9時～午後5時（入館は午後4時半まで）

### ■休館日

11月～2月の毎週木曜日 年末年始（12/29～1/3）

公益財団法人 藩老本多蔵品館

〒920-0963 金沢市出羽町3-1  
TEL 076-261-0500 FAX 076-261-0525  
URL <http://honda-museum.jp/>



いしかわ赤レンガミュージアム

# 加賀本多博物館



藩政時代の文化・歴史を知る





初代本多政重画像

## 本多家とは

「加賀百万石」といわれる加賀藩には、1万石以上の禄与えられた大名クラスの重臣で、年寄役を勤める家が8つありました。これらは「八家」と呼ばれ、平時には藩内の政務を統括し、戦時には軍団の長となる藩内最上級の家柄でした。八家のひとつである本多家は、大名の3分の2が禄高5万石以下であった江戸時代に、5万石という破格の高禄を受けました。また、本多家には藩主前田家より、3代利常六女・春姫、12代斉広七女・すずひめ寿々姫の2度にわたる姫君のお輿入れがありました。

本多家初代の政重は徳川家康の重臣正信の次男ですが、奉公先を次々と変え、関ヶ原の戦いでは宇喜多秀家の家臣として西軍で活躍しました。慶長9年(1604)には上杉景勝の執政・直江兼続の養子として米沢に居住し、直江勝吉を名乗ります。その後、慶長16年(1611)に加賀藩に仕え、重要政務に携わるなど大きな役割を果たしました。以後、歴代当主も同様に重責を果たし、幕末の11代当主・政均は執政として活躍しました。

現在、当館の下に広がる一帯を「本多町」と呼びますが、これは江戸時代に本多家の中・下屋敷があった地域です。下屋敷に住む本多家の500人以上に及ぶ家臣は、ここから現在の石川県立美術館や当館など一帯にあった本多家上屋敷に出動していました。



火事装束（当主用）

火事装束（夫人用）

いろいろおしに まいどろく そく  
色々威二枚胴具足

『の』の字文象嵌鎧

いなづまひしもんきんまき えしゅう  
稲妻菱文金時絵重

## 所蔵品のご案内

当館では、初代政重所用の鎧や兜、刀、槍など、多数の武具を所蔵しています。政重の名を金象嵌した刀や、相当の剛の者でなければ扱うことのできない大身槍などは、一見の価値があります。

また、馬具の品揃えは全国でも随一です。時絵の鞍や、精巧な加賀象嵌を施した鎧、戦場でつける馬鎧から馬の沓まで、珍しい資料を所蔵・展示しています。

このほかにも、華やかな火事装束、加賀藩主前田家からお輿入れになった姫君所用の品々、屋敷絵図などを多数展示しています。



しつぽうち もんか ししゅう  
七宝散らし文菓子重



おおどくり  
大徳利